衛星数が即時性と面的カバー率を決める

世界中の衛星を日本の防災へ最大限活かす

課題

Project Managerが足りない。

→ 西日本豪雨では、PMは日本人ではなく土地勘がない海外の方が担当

課題

西日本豪雨ではセンチネルアジアの衛星データは政府や自治体の活用が限定的だった。

アプローチ

日本で発生する災害については、PMとなり、衛星コンステレーションの実現を目指す。

アプローチ

緊急観測要求の受付窓口であるアジア防災センター(ADRC)と連携を強化し、政府、自治体、ISUT等へのデータ提供を橋渡し。

今後の観測計画立案

- 課題：東日本大震災
  - 海外から6000シーンの衛星画像
  - 府省庁や自治体に様々な情報を提供

SIP

合計200機以上のコンステレーション

・ALOS-2
・ALOS-3
・ALOS-4
・CosmoSkymed (4機) 等

＋

小型レーダ衛星、商用光学衛星　等

観測トリガー情報
・面的震度分布
・浸水被害情報　等

→

観測計画の立案

200機近い衛星に対して適切な計画を自動立案

観測条件等

観測対象

レーダ衛星：土砂崩れ域、浸水域、…
光学衛星　：建物被害、…

港湾、空港、橋梁、避難場所、病院、…